

いしかれん だより

第29号

2001. 12

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町ル3番1
石川県こころの健康センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

平成13年度

北信越ブロック家族会精神保健福祉

推進活動研修会実行委員長を終えて

梶 義 伸



本年度は石川県が当
番県で、去る9月20日
(木)～22日(土)に山代
温泉ゆのくに天祥にお
いて「市町村とともに
拓く精神保健福祉」と

いう総合テーマで北信越家族会ブロック研修
会が開催されました。参加者も530名と多く
の方々にご参加頂きました。

その道の権威ある諸先生方の熱意あるご講
演は素晴らしく、参加者は深い感銘と今後の
指針を得ることができました。また、どの分
科会をのぞいても真実と熱意あふれた会場に
なり、高い評価を頂きました。これも一重に
関係者の方々の多大なご協力と行政の支援の
賜物と厚く御礼申し上げます。

なお、盛会に導いた要因として以下の点が
寄与したといささか自負しております。今後
の参考になれば幸いに思います。

＊ 平成12年5月より準備活動を開始。ま
ず、会場と日程の仮おさえに入る。大会会
場条件として500名以上の会議場があり、
100名～150名程度の分科会会場が4ヵ所見
込める会場であること。また、庶民的価値
観で格調高い会場であること。

必然的に山代温泉ゆのくに天祥に白羽の
矢を立て交渉が決まる。

＊ 今回から旅行業者に入ってもらうため、
地元で一番協力していただけるというこ
とでJR小松駅さんに平成12年6月よりお願
いする。大会申し込み・まとめ・入金の確認
・参加者の県別名簿作成・必要事項の処
理・IDカードの作成・ホテルの部屋割・
苦情処理・弁当の手配等を担当していただ
く。

＊ 家族会ができる限り自前で行う。企画、
受付、案内看板(家族会員)等。司会は家
族会常務理事。事務局には県のこころの健
康センター職員、家族会会長・副会長・常
務理事があたる。

＊ 平成12年9月に実行委員会を編成。地元
市役所、南加賀保健福祉センター、社会復
帰施設、県こころの健康センター、旅行業
者、家族会常務理事一同で構成。まず講師
の選定から着手。毎月例会を開催。日程表
にもとづき役割分担に入る。

＊ 懇親会の歓迎サービスで加賀太鼓、野々
市じょんから、能登地方の民謡と踊りなど
石川県のカラーを工夫して演出。

＊ ボランティア団体に自主的協力を依頼。

平成13年度 北信越ブロック家族会精神

基調講演

「地域で精神障害者を支える」～保健・医療・福祉の垣根を越えて～

講師：国立精神・神経センター 総長 高橋 清久

精神障害者の方々の地域生活支援をすすめる上での大前提として、3点話された。

- ① 偏見や差別を撤廃してノーマライゼーションの実現をするには、障害者が身近に生活し地域に出ていくことで、時間をかけて偏見をとっていくことが大切である。
- ② 障害者の人権を尊重し、自己決定を重んじることで、上から与えられる医療、福祉でなく、その人なりに自由に生活する権利を尊重し、本人の希望を認め、本人が努力し（もっている力を生かす）出来ないところを補っていく姿勢が必要である。
- ③ これからは、障害者を中心に、保健・医療・福祉が連携していくことの大切さを強調された。

その後、地域支援を支えるための医療、福祉のあり方について具体的に話された。平成14年度から始まるホームヘルプ事業や平成15年度から導入されるケアマネジメントの理念やこれからの課題についてわかりやすく話されたが、当事者、家族及び保健、医療、福祉の関係者一同、安心して住み良い地域について考える機会となった。



講演

「これからの家族会のあり方」～家族会の原点と市町村との連携～

講師：日本福祉大学 教授 池末美穂子

家族会活動の原点 ①支え合う ②学習 ③運動 この3本柱のバランスが大切。

これまでは、作業所運営を自分たちで実践するなど、③の運動にエネルギーがさかれてきたが、これからは的確に課題を掴み市町村へ要望する。そして、①の家族同士の支え合いを大切にすること。

家族会の課題 家族の悩みを真剣に受け止めていますか。

- ・家族会に参加していても解消されない家族の不安。
- ・例会を魅力あるものにする。参加者が満足できる話し合いが出来てますか。はじめての参加者が安心して居られる配慮ができていますか。
- ・正しい情報が得られる場になっていますか。

市町村との連携

- ・保健所には保健の専門機関として従来どおり支援を受けることができる。
 - ・市町村にも福祉の相談にいくことができる。
- 来年からは、二つの相談窓口を手に入れることができます。



講演

「精神障害からの回復—治療・家族の役割」

講師：石川県こころの健康センター 所長 清田 吉和

家族の役割と言うことで一番興味があり、主人共々学びました。色々な患者さんの症状、家族の対応などを説明していただき、改めてこの病気のむずかしさを痛感しました。感情表出EEの高い（批判、敵意、感情的・まきこまれ過ぎ、心配しすぎが強い）家族と同居している患者さんは、EEが低い家族との同居に比べて再発しやすいと教えられ、親としても反省しました。又心がけたいことで、「一步一步二歩進んで一歩後退の気持ちでゆっくりと。」と言われたことが一番印象に残りました。3日目にしてやっと心やすらかにゆっくりとお話をきくことができました。本当によかったです。ありがとうございます。



保健福祉推進活動研修会開催される

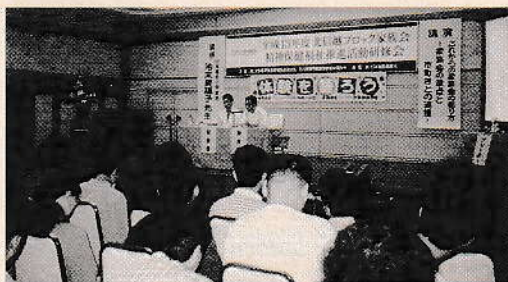


↑① 9月20日 12:00
受付開始
受付係延べ35名で対応
参加者 530名

②13:00 開会式
いよいよ
↓はじまりました



↑③18:00 懇親会
「能登チョンガリ節」を踊る
輪水会の皆さん



⑤13:00
第1分科会：
↓家族会と市町村



↑④ 9月21日 9:00
体験発表
クリエーションけやき
メンバーの発表

↑⑥第2分科会：
これからの作業所運営



⑨施設見学ツアー
なごみの郷
↓矢田野ファクトリー



⑧第4分科会：
↓家族のためのSST

↑⑦第3分科会：
ボランティアと一緒に作る
これからの精神保健福祉



第34回全国精神障害者家族大会 福岡大会に参加して

石川県精神障害者家族会連合会

会 長 西 出 外 次

第34回福岡大会は北九州市小倉リーガロイヤルホテルで10月30日午後1時30分開会。全体スローガンは「21世紀の挑戦—自由・平和・共生の時代へ—」参加者も1千人余りで会場も広く驚きました。2日目は会場もガラッと変わり、西日本総合展示場で理事長、来賓の祝辞の後、功労者表彰受賞者44名。その中で石川県連よりしらぎく会の南出義一氏が表彰されました。私達の先輩は偏見と闘いながら我が子兄弟の為に頑張ってこられました。この方々に敬意を表すると同時に、今一層心を引きしめて、たえず新しい方向に共に邁進していきたいと思います。

さて、今回の大会で注目の的になったのは三障害のシンポジウムでした。一部を紹介致します。“視覚障害者の立場から”「私は先天性の弱視で（だんだん目が見えなくなる病気）学生時代は目が見えたがだんだんと視力が低下し二人の子供を生んだ時は明るい所で子供の顔を一生懸命見て心に焼き付けていました。今はほったをすりつけても見えません。自分の子供の顔が見えないという事は本当に辛いです。（会場ではすすり泣きをする人が沢山いました）偏見や無関心といった心のバリアを取除き誰でも住みよい街づくりが一日でも早く実現されることを願っています」。次に“身体障害者の「住みよい街づくり」”北九州自立生活センターは身体障害を持つ人が中心になって設立しました。障害をもつ仲間達と自立生活をサポートしながら頑張っています。困難さや課題を分かちあい、自立生活を送るための取り組みを行えるよう



になってきた事は大変うれしい事です。知的障害者や精神障害者の仲間達ともこれまでなかなか語り合えてこなかった。仮に障害をもつ人が世間にいなくなった街を想像したら恐ろしくありませんか。常に正常という、形のないものにしばられ、緊張していなければならないでしょう。病気も老いも許さず思いやりの心は薄れ、人々は孤独になってゆくかも知れません。自信をもって私たち障害者から街と社会を本当の豊かな方向に開いてゆきましょう。

さて、精神障害者で作った劇団「ママ」はメンバー18名でつくった劇団です。精神障害者は世間から危ない怖い存在という大きな誤解を招いています。そこで「ママ」は精神科の開業医の先生の発案によって旗揚げされ、過去4年公演を重ねてきました。精神障害者の犯罪率は全犯罪者のわずか0.6%の比率なのです。怖い存在でも危ない存在でもない障害者たちが自分と言うものを隠さず堂々と演技をしているとのことで感動しました。残念ながら紙面の都合でこれまでとします。来年は京都大会ですので今のうちから心の準備をしておいてはいかがなものでしょうか。

加賀ひろぎく家族会活動のあゆみ

しらぎく会

しらぎく会の活動として毎月の例会・運営委員会・家族通信の発行・イベント等があります。毎年の総会には必ず著名者の（谷中輝雄氏・滝沢武久氏・牟田悌三氏・門屋充朗氏ほか）記念講演を続け、広く他の家族会にも呼びかけ、社会復帰施設、市民の方々にも来ていただきました。特に近年の啓発活動の主たるものを下記に紹介します。

♥ 病院家族会は病院だけでなく地域にとけこむ努力の第一歩として、しらぎく会家族会の行事の主たるものを平成6年より加賀市民会館に移行。

♥ 平成7年4月しらぎく家族会全面的支援のもとに社会福祉法人朋友会通所授産施設「はるかぜワーク」、生活訓練施設「ひだまり寮」開所。



平成13年6月総会「障害があっても生き活きと」
精神医療サバイバー 広田和子氏と

♥ 平成11年度県連家族会「心のふれあい講演会」は加賀地区が担当。加賀市内の三障害施設代表の方々に初めて実行委員会にも入ってもらい、合同で作品展示等を行なう。講演会では竹村賢治先生（昭和大学附属病院名誉院長）に来ていただき、県下に広く呼びかけ盛会となる。



平成13年7月定例会、別所温泉で
くつろぎながら

♥ 平成10年度より福祉工場の勉強会（講師は岩尾 貢氏）を始め、しらぎく家族会、地域の方々、病院・関係者の方々の熱意と行政の支援により平成12年5月9日に社会福祉法人共友会精神障害者福祉工場「矢田野ファクトリー」が開所

♥ 加賀市に在住する三障害を中心に家族、当事者、支援グループの11団体で構成する「福祉を実現する会」を平成11年度より発足。平成13年度はまず、各団体合同の交流会で従来からの縦割の壁を破るべく、バリアフリーで支え合う意識を高め、次に市民参加型の合同イベントを加賀温泉駅前アビオで平成13年2月17日（日）に行う。各関係機関福祉団体の後援を頂く。



平成13年9月 大聖寺十萬石祭に出店

事務局：加賀神経サナトリウム医療相談室内
TEL (0761) 72-0880

最近の話題

全家連が精神分裂病の名称変更キャンペーンを実施！

精神分裂病という病名のもたらす言葉の印象から、あたかも精神が分裂してしまつて、特別な病気と捉えられ、家族は世間の偏見に苦しめられてきました。

全家連では、この病名変更を通して新名称と共に、その理由や病気の特徴、治療法などが広く国民に伝わることを肝心であると考え、日本精神神経学会と連携しながら、ホームページや新聞公告により名称を募集するキャンペーンを実施しました。

新名称を決定するのは日本精神神経学会です。

学会では「精神分裂病」にかわる3つの名称を考えています。

- ① スキゾフレニア
- ② クレベリン・プロイラー症候群
- ③ 統合失調症

尚、名称変更応募は、去る10月25日で終了しております。今後、このキャンペーンの主旨をくんで、私達も周りにより理解者を増やしてゆく努力を続けたいと思います。

お知らせ

第2回 全国こころの美術展（絵画）

今年3月東京で開催され、好評を博したこころの美術展第2回が開催される運びとなりました。

募集方法など詳細については年内に各都道府県連合会を通してお知らせします。

日 程：平成14年3月15日（金）～19日（火）

会 場：東京国際フォーラム ギャラリーA

平成13年度相互相談援助事業

昨年、今年と、北信越ブロック研修会で「家族のためのSST」の講師をつとめられた高森信子先生のお話を、是非一人でも多くの皆様に聞いて頂きたく企画致しました。

日 時：平成14年1月23日（水） 10時～15時30分

場 所：石川県こころの健康センター

内 容：講義と実習

「こころのふれあい講演会」

開催日 平成14年3月8日（金） 13時30分～15時30分

場 所 輪島市文化会館

講 師 日本福祉大学 教授 池 末 美穂子

テーマ 「こころの健康と地域の福祉」

第15回精神障害者リハビリテーション会議
精神障害者の社会復帰と
社会参加を推進する全国会議
市町村と自立生活支援
～新しい可能性をつくりだそう！～
●ご案内●



2002年2月27日（水）～28日（木）



（財）全国精神障害者家族会連合会
（精神障害者社会復帰促進センター）

全家連理事長表彰を受賞

しらぎく会 南 出 義 一 さん

（13年10月30・31日 福岡県）

***** 編集後記 *****

- 今回は、9月に開催された北信越ブロック研修会に焦点をあてて、編集致しました。参加された方は、それぞれ収穫も大きかったことと思います。（紺谷）
- 9月の北信越大会であらためてこの14年を振り返り、子供のおかげで家族としての生き方をおしえられました。（大橋）